桜ヶ丘だより

発行
岐阜県立関高等学校
同窓会会長河合定彦

印刷所
ムトウプリント

諸感―再び関高に勤務して

学校長　川崎立夫

三年後に七十周年を迎える本校は一四、八四一名（昭六三・二）の卒業生を数え、当地区のみならず全国の各界に英才が輩出して関高校の名を天下に響かせています。校歌に「真澄の叡智雲りなく…、里の栄えをいや増さん…、我等が誓永久にゆるがじ…」とありますが、時代が移り、人が変ってもその精神と伝統は脈々と生き続いております。古来関市は日本刀の鍛錬で示される質実剛健な気風と至誠勤勉な行の育ったところであります。この風土の中の学問の府として先輩たちが築いてこられたよき伝統を在校の生徒・職員共々誇りをもって継承し、さらに発展させたいものと願っております。

私は三十余年前新任教員として本校に赴任し八年間厄介になりましたが、縁あって再び郷里で勤務することになりました。躍進関高に勤務できる幸を噛みしめながら同窓生の皆さんの御期待に反しないよう、強く逞しい後輩たちを育て母校の発展にベストを尽くしたいと存じます。御支援のほどよろしくお願い致します。

現在高校へは九十四％が進学し、国民の基礎教育の場として位置づけられるようになりましたが、その中にあって本校は北は郡上郡から南は加茂郡までの俊秀が集まり、当地きっての名門校として学習面に、体育面に活躍しております。急速に進む物質文明は高潔な心をむしばみ、なさねばならない生活規範が乱れがちでありますが、この社会風潮の中で関高生には各々自己を認識させ、将来有為の人材としての素質を養わせるべく努力致しております。おかげで大部分の生徒がそれを自覚し、例えば先輩方より寄贈された桜ヶ丘会館内の図書館では常に超満員の盛況で、目を輝かせて粛々と勉学にいそしんでいます。

高校生活は生涯にまたとない機会のはずであります。桜ヶ丘での「出会い」を大切にして同窓生の皆様が結ばれ、お互いに励ましあって生きて下さることを願う次第であります。御健勝を祈ります。

新同窓会員を迎えて

同窓会長　河合定彦

卒業おめでとうございます。古き伝統と、高雅な格式を誇る関高同窓会に入会された皆さんを、一万五千有余の会員一同、心から歓迎いたします。

私たちは今、過去の歴史のなかでも類をみない激変の時代に生きています。現代の一年は、過去の十年の変化に匹敵するといわれますが、これはけっして誇張ではありません。

君たちには、どんな事にも臆せぬ若さがあります。十八才という若さには何ものにもかえがたい価値と魅力があります。

自分には生まれつき才能がないと諦めてしまい、何の努力もトレーニングもしない人がいます。そんな人たちを翻然と悟らせてくれる人が、身近な同窓生には多数いらっしゃいます。

この人たちは、人間の能力は無限に開発しうるものだという確固たる信念を持ち、それを、実際に支える学問的裏づけと、具体的な技術を持ち合わせておられます。こんな人たちに機会あるごとに話しかけ、指導をしていただく、そんなことが気楽にできるのが同窓会なのです。大切なことは、創造性をはばんでいる一番大きな原因、それは考えることをしない怠慢です。

二度と訪れない青春を謳歌すると共に、人生に対して苦闘してください。君たちのあとに続く後輩のためにも大いにがんばってください。

健康にはくれぐれも気をつけて。

関高校コーラス部
第23回定期演奏会
3月25日(金)　開演 PM 6:30
関市文化会館大ホール

関高校ブラスバンド部
第18回定期演奏会
3月29日(火)　開演 PM 6:00
関市文化会館大ホール

昭和61年度 同窓会決算報告

【一般会計】収入の部　（単位：円）

	予算額	収入額	摘要
前年度繰越金	405,989	405,989	
41回生入会金	828,000	828,000	2,000円×414人
雑収入	5,000	2,732	
計	1,238,989	Ⓐ 1,236,721	

支出の部　（単位：円）

	予算額	支出額	残高	摘要
会議費	100,000	66,190	33,810	役員会茶菓子代等
消耗品費	30,000	26,500	3,500	封筒代等　名札
印刷費	200,000	119,900	80,100	桜ヶ丘だより
通信費	150,000	129,498	20,502	郵送料、切手代等
旅費	30,000	20,040	9,960	タクシー代等
渉外費	80,000	55,000	25,000	各支部へ
慶弔費	100,000	160,840	−60,840	香典、餞別等
部活動後援会費	130,000	106,000	24,000	東海大会出場激励金等
卒業記念品費	50,000	44,400	5,600	卒業証書筒
備品費	10,000	0	10,000	
総会費	200,000	200,000	0	
事務局費	150,000	150,000	0	メインテナンス契約料等
予備費	8,989	15,000	− 6,011	入会金払い戻し
計	1,238,989	Ⓑ1,093,368	145,621	

Ⓐ−Ⓑ=143,353

【特別会計】（単位：円）

	収入額	支出額	残高	摘要
前年度繰越金	1,671,471		1,671,471	
41回生入会金	414,000		2,085,471	1,000円×414人
庭木		4,500	2,080,971	
工事費		35,000	2,045,971	
計	2,085,471	39,500	2,045,971	

昭和62年度 同窓会予算案

【一般会計】収入の部　（単位：円）

	予算額	摘要
前年度繰越金	143,353	
42回生入会金	828,000	2,000円×414人
雑収入	2,000	
計	973,353	

支出の部　（単位：円）

	予算額	摘要
会議費	90,000	役員会茶菓子代等
消耗品費	30,000	封筒代等
印刷費	130,000	桜ヶ丘だより
通信費	150,000	郵送料、切手代等
旅費	30,000	タクシー代等
渉外費	60,000	各支部へ
慶弔費	90,000	香典、餞別等
部活動後援会費	120,000	東海大会出場激励金等
卒業記念品費	50,000	卒業証書筒
備品費	0	
総会準備費	100,000	
事務局費	120,000	メインテナンス契約料等
予備費	3,353	
計	973,353	

（上記の会計費目の流用は役員会の承認を得てする）

【特別会計】（単位：円）

	収入額	摘要
前年度繰越金	2,045,971	
42回生入会金	414,000	1,000円×414人
計	2,459,971	

新会員のクラス委員決まる

昨日入会式を終えた新会員三六四名のお世話をしていただくクラス委員が次のように決まりました。（敬称略）

三年一組○亀山　大三
　　森　博敏
二組　朝田　康裕
　　村瀬　尚子
三組　西部　智明
　　一柳　裕子
四組　池村　隆臣
　　金井　桂
五組　小竹　淳一
　　福山　華代
六組　亀山　和彦
　　足立　純子
七組　足立　司
　　青山　都
八組　田中　裕之
　　○高井　芳江

○印は40回生幹事です。よろしくお願いします。

検討中。校訓がなくて肩身の狭かった（？）同窓生一同も、これが決まれば一安心か。

▼同時に、現在の制服を時代に合った機能的なものに改めては、と**制服検討委員会**も発足。カッコ良くてユニークなものになれば中味の人間も洗練されることになる、かどうか。

▼四月から三学年そろって九クラス、27学級の大規模校に。同窓生も一万五千人近くになり五月の同窓会総会が役員改選期。ただ今**指名委員会**で候補者を人選中です。

母校短信

▼関高にも校訓を是非作ろうと**校訓制定委員会**が設置されて

おくやみ

ご冥福をお祈りします。

青山　健吉 先生

昭和六十二年十一月三日逝去されました。
昭和四十一年～四十七年関高校々長として御尽力いただきました。

服部　竹風 先生

昭和六十二年十一月二十日逝去されました。
昭和二十五年～四十一年教諭。
その後、本巣高校を歴任され、書道家としてご活躍されました。

断片的に甦えってくる。「あんなこともあった」などと思い返してみると、案外いろいろなことがあったのだな、と感心してしまう。

私の三年間は充実していた。学生の本業である勉強はもちろんのこと、部活動も自分なりにやったつもりだ。自分のやりたいこともたくさんできた。「勉強と部活動の両立」とよく言われるが、全くその通りだ。どれも中途半端で終わってしまっては、満足感を味わうことはできないだろう。しかしながら、どちらか一方だけに満足感を味わうというのもおかしなものだ。それでは、自ら心を虚しくしてしまっているのではないだろうか。ある一つの物事だけが全てではない。勉強、部活動の他に自分のやりたいこと、やらなければならないこと全てに全力でぶつかってこそ何かを得ることができ、また満足感を得ることができるのではないか。

私がいつも全力でぶつかることができたのは、友人達がいてくれたからだ。彼女達が私に与えた影響は多大なものだった。高校生活の中で自分を磨くことができたのは、彼女達のおかげなのだ。また、周りの環境の良さも私に良い影響を与えたのである。

今、精神の確立、形成と徐々に成されてきている時期だが、それは、いかに自分を深く見つめることができるかが、カギなのである。自己を再認識しながらより人間的に大きくなっていくのだ。そこから人間の強さ、信頼が生まれてくるのではないだろうか。我々は、今まで闘い方を何らかの形で学びとったはずだ。そして、これからはその学んだことを生かす時なのだ。いかに自己との闘いに挑戦できるか。挫折しても次へのステップと思えばよい。いつも挑戦することをやめないエネルギッシュな人間に成長できたら、と思う。

お知らせ

昭和６３年度
関高等学校同窓会
総会の案内

下記のように同窓会総会を開催しますので是非御出席下さいますよう御案内申し上げます。

●日　時
昭和６３年５月８日(日)
午前11時より

●場　所
関刃物会館(関市平和通り)

創立七十周年について

大正十年三月、関町立実科高等女学校として設置認可され、四月十五日、仮校舎で開校式が行われてから、昭和六十六年には七十周年を迎えます。

これの記念事業については、同窓会を中心に、学校当局と、ＰＴＡの三者で代表者を出し合い企画協議をしております。

この記念事業についての協議報告は逐一いたしますが、会員皆さまの御意見を待っております。

現在、校舎のまわりには桜の木が多数植わっており、入学式の頃には満開の花が校庭をうめつくします。

校歌の初句には、

「さくらが丘の……」とあるように、「桜」にむすびつく会の名称についても皆さまのアイデアをお寄せください。

因に、隣りの武義高（旧武義中）は、古城会と称しています。

支部だより

後藤けい子

高校11回卒
横浜市戸塚区戸塚町
一八七三―一七

こちらの集まりの様子をお話しいたします。

高校十一回より上の方の開催は、二年おき、三年おき、「そろそろ集まろうか……」等で、おしゃべり、カラオケ等が中心ですが、御自分のスライドと共に話されたり、旅行を兼ねての集まりもあります。幹事は回り持ち常任等いろいろですが、働き盛りの忙しい方達をとりまとめる幹事さんの御苦労はやはり大きいようです。十二回以降の方達は個人的に集まっておられます。

私達高校十一回卒の場合、二年ごとに都心のホテルで開きます。地方からの出席者のためにツインの部屋を六つ七つ用意しますが、二次会はそのまん中の部屋で、車座になり深夜二時～三時まで語らいます。今年の秋の集まりには、翌日、鎌倉散策を計画しています。転勤途中での参加もありますが、ふるさとを離れた者にとっての同窓会は、高齢化に伴い、ますます意義のあるものになって来る様に思われます。

次に要望ですが、集まりで話しておりますと、関・中濃地方の地名・町名・街道・神社・仏閣の由来・歴史等、ほとんどの者があやふやな状態です。シリーズで少しずつでも入れていただけませんか。

恩師寄稿

亀山むつ先生

いつの間にか月日が過ぎて私も年をとりました。武儀高女で親しくしていただいた先生方も次つぎと逝かれて淋しくなりましたが、私は第七回の方がたの入学と同時に転勤して来たのでした。ずい分長い年月を武儀高女でお世話になりましたが、現在も恙なく安桜山の西の麓に住んでおります。千葉の栗田先生や大垣の旧姓和田先生など、時々電話をいただいて、過ぎた昔をなつかしく思い出しております。

武儀高女でお世話になっていたおかげで、街を歩けば誰かに声をかけられ、また電話もかかって来ます。そういう事で淋しいとも思わず、独り居を続けております。若い時の学生時代も、学校に勤めていた時の舎監としても寄宿生活が長かったので、それが身についているのか、現在でも朝は凡そ六時半前後には起き、夜は十時半前後に床につきます。三度の食事も自炊して、怠けずに必ず食べます。近頃は電子レンジという便利な物ができましたので助かります。

物ごとをよく忘れるようになりましたけれども、食事と銭湯へ行くことは忘れません。毎日五分ほど歩いて銭湯へ行くことが、よい運動になるのだろうと思います。

冬期は専ら炬燵で新聞や雑誌をみて、筆ペンで観音経の偈の一部を写経して、次に日記をつけるのが私の日課でございます。

今年は卒寿をすぎて三回目の新年を迎え、感謝しております。皆様もますます御元気にお倖に家庭に地域に、御活躍下さいますように念じております。そして、関高校同窓会のますますの御発展を切にお祈り申しあげます。

地域別(郵便番号別)名簿 即 作製できます

会員数の激増と事務の複雑化に伴い、本会と日本名簿出版㈱との間に、年間十万円で業務代行契約がなされています。

会員データを磁気テープ・デスクに登録されており、次のサービスを受けることが出来ます。

○住所変更・文字訂正・新会員の登録など、年二回のデータ修正がなされ、宛名ラベル出力、リスト出力(要別料金)、この為、地域別名簿も作成され事務局(学校)にあります。

これを有効に活用され、各地域会員の交流を一層深めてほしいものです。

会員の移動がありました折は学校内同窓会宛にご一報下さい。(名簿末頁に同窓会宛専用ハガキが添付してあります)

人物紹介

高校第３回生
加藤(遠藤)正夫氏
(県立下呂温泉病院長)

兵頭(前畑)さんのリハビリで、全国に有名な病院の院長さん。現在では、有名スポーツ選手をはじめ、多数の有名人のリハビリの病院として、名をましている。

少々手荒いがリハビリに関しては、まかせとけ。

人間、五十をすぎたら、草を食っとればええ。……とは院長の弁。

九重会

第９回生Ａコース卒
斉藤達也

昭和三十二年、春日八郎の唄う「お富さん」を蛍の光と共に聞き、トリスバーで一杯五十円のハイボールをひっかけ、スクリーンではジェームス・ディーンの演ずる「エデンの東」に酔い、芥川賞受賞の「太陽の季節」のどまんなかで青春を過して、はや三十余年、我々第九回生Ａコースの仲間同志の親睦を目的として九重会をつくったのが六十一年一月です。

二ヶ月に一度、ある時はコーヒーとケーキで、またある時は会食にと楽しんでおります。

三十年代にタイムスリップして初恋の話題から、あるいは腰が痛い現実など時代がごちゃごちゃ……五目飯のような会話が進んでいます。

そんななかにも誰もが楽しく唄ったり、しゃべったり、時には懐しい思い出を肴に杯をくみかわしたりの雰囲気は実年そのものです。

思えば昭和三十二年我々Ａコース卒業生に対して社会は、なべ底不況と冷たく苦しい時期に就職し、また家業に入るなどしたものです。

今、時の流行歌「喜びも悲しみも幾歳月」……長かったようで、短かかった三十余年です。

一年に一回は小旅行を計画しグルメに、唄にと我れを忘れる一日をバカンスできるのも、生き仏の大仏さまのお力と感謝しております。

現在は関在住の会員が主ですが、遠方の方でもオープン参加大歓迎です。

チームワークの良かったＡコースを再現し、「我が人生に悔はなし」に向ってレッツゴーしませんか！。

＊　＊　＊